

令和元年度 第2回中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年12月20日(金) 午後1時30分～3時
会場	中央区役所(NEXT21・5階) 対策室
出席者	中央区自治協議会委員20人 教育委員 上田晋三教育委員 小野沢裕子教育委員 事務局 佐藤夏樹教育総務課長補佐 緒方猛地域教育推進課長 山田哲哉学校支援課長補佐 曾我広人教育総務課主査 浅間直美中央公民館長 佐々木徹中央区教育支援センター所長 玉木浩指導主事 澁谷雅秀指導主事 五十嵐政人主任 学 校 小林淳英関屋小学校教頭 山田淳女池小学校教頭 傍聴者 0名 マスコミ0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(上田教育委員、小野沢教育委員) 3 報告と説明 4 意見交換 (司会 中央区教育支援センター所長)
開会/あいさつ	
上田教育委員	・私がPTA会長をしていたときは、教育ミーティングもコーディネーターもありませんでした。地域とのかかわりもそう多くはなかったと思います。今日は皆さんからいろいろな話を聞かさせていただきます。
小野沢教育委員	・子どもたちが商店街で「こんにちは」と声をかけてくれると、町が明るくなります。子どもが地域のなかでどう活躍し、それを周りが支えていくのか、とても大切なことだと思います。
報告と説明	
令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について	
学校支援課	・省略

コミュニティスクールについて

教育支援センター

- ・学校、保護者、地域で知恵を出し、学校運営に意見を反映させて、協働で「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み。
- ・学校運営協議会を設置し、学校運営の基本方針、目指す子どもの姿、学校や地域の課題などを共有し取り組む。
- ・令和2年度から2か年、モデル校で実践する。中央区は鳥屋野中学校区を予定している。

現状報告 保護者、地域、学校の連携について

教育支援センター

本日のテーマの中核になる「地域と学校パートナーシップ事業」の昨年度の結果について

- ・昨年度一年間で、中央区27の小中学校等の活動や事業に参加したボランティアは延べで5万人を超え、一校当たり1,867人のボランティアが参加したことになる。

登下校の安全指導が一番多い。ボランティア参加者の9割強が、地域の活性化につながっていると肯定的意見を持っている。

- ・全学校の8割強が地域貢献活動や地域団体、図書館、公民館等と連携している。
- ・ボランティアの固定化、活動のマンネリ化、事業の周知についての課題が見受けられる。

学校現場の取り組みについて

関屋小学校

- ・全学年で地域と関わる。一例として、1年生は「昔遊び体験」、3年生は「1日店員」、6年生は「地域の福祉を考える」。外部人材などを活用している。
- ・校長室カフェといって、月に一回、校長室を開放して、コーヒーを飲みながら、地域の人たちと話し合っている。
- ・ボランティアは盛ん、校外学習の引率ボランティアなど。のべ700人近い。
- ・成果は、ウィンウィンの関係を生み出したこと。地域と学校のベクトルが同じ方向にする効果がある。
- ・課題は、さらにどう充実、発展させるか。

女池小学校

- ・三つの学年の実践例、2年生は町に出て25の店などを周った。保護者が同伴した。お店からは説明をしてもらった。
- ・3年生は、女池ならではの特徴を学ぼうと、2年の時に周ったお店についてさらに見学した。
- ・6年生は、そのお店の仕事を手伝ってみた。38のお店に受け入れてもらった。今年は、「夢先生に学ぼう」と地域や保護者から話を聞いた。

・女池にあるたくさんの商業施設で働いている方々の様子を見たり聞いたりして、自分の将来について何かしらの考えが持てるのではないかと、それが鳥屋野中学校でのキャリア教育につながると考えている。

意見交換 保護者、地域、学校の連携について

出席者が4班に分かれて意見交換を行い、課題を報告した。

A班

・学校が保護者を恐れたり、ボランティアに頼りすぎたりしているのではないかと。先生はなかなか時間が取れないので、地域とのかかわりができない。子どもたちにも塾だけでなく、地域のお祭りや運動会に関わってもらいたい。

・ひまわりクラブのことも話にでたが、働いている保護者が多いので、子どもたちの放課後の育英をどうするかという問題もある。

・関屋小の校長カフェ、鏡淵小学校の三世代運動会、地域と学校がかかわりをもつことは大事。

B班

・地域のコミュニティ協議会との連携が大事で、交通の見守りボランティアが少なく、コミ協に相談したら一挙に60人になった。

・礎コミ協でも三世代運動会をやっている。そのときは、4、50人の小学生が参加してくれる。マンションからの参加もある。

・PTAの必要性とか、会合は19時以降とか、先生方の負担が大きくなるのでは。

・新潟小学校の見守り隊は1年から6年生になるまでやっている人がいる。子どもたちとのコミュニケーションができていて、道ですれ違っても挨拶している。

C班

・下町（しもまち）は共働きが多く、祖父母や地域のお年寄り、隣近所が子育てをする、見守りをするような地域で、先生や学校とも本当に信頼関係があった。

・今、地域、学校、保護者の関係では、保護者と地域の接点がないように思われる。学校も地域の行事に取り組んでいけば、三者の関係はよくなるように思う。

・昔みたいに、学校に百パーセント信頼されるような地域と保護者であればよいのだが、いろいろなルールがあって、できないことも考えられる。

D班

・理想の子ども像というのが、わかっているようでわからないのではないかと。

・保護者、地域、学校の三者が連携すればいいのだけれど、現実には離れている。例えば、白山小学校は8割がマンションで、マンションの子どもや親たちは、防災訓練があっても出てこない。

- ・学区の区割りが複雑になっているところもある。コミュニティ協議会に入っていない人もいる。青山小学校の卒業生は、半分は関屋中に、半分は小針中にいくという現実もある。
- ・三者が連携するには、学校に地域の人が出入りしたり、子どもが地域に出ていったりする。
- ・山潟地区では、中学生がお互い様ネットワークで、高齢者のごみ捨てをしている。子どもたちにやってもらって、保護者が見守って褒めてやることは大事だと思う。
- ・後継者不足という問題もある。コミ協、自治会、ボランティア、みな難しい状況。
- ・参加者がいないという問題もある。マラソン大会に子どもたちが出ると、我々スタッフは助かる。

小野沢教育委員

- ・将棋やオセロ教室にたくさん子どもたちが集まってきている。そこに介護施設からお年寄りが来て、子どもたちと握手したら、涙を流された。子どもたちは、ふだんは接しないおばあちゃんやおじいちゃんの涙を見て、何かの種を植えてもらったのではないかと思う。
- ・子どもたちは、褒められると頑張れる。マラソン大会などは、全中学校に声をかけて、中学校の部活動に関係なく、やりたい子どもにやってもらえると、すごく広がっていくと思う。

上田教育委員

- ・今一度、学校、地域、保護者の連携のあり方を、今に合ったものに変えてなければならないのか、と思う
- ・市のPTA連合会では、先生方にどのように協力していけば、先生方の負担が減らせるかという話をしていると聴いている。どうか、温かい目でみていただきたい。

自治協委員

- ・退職1年前の校長について。

閉会/あいさつ

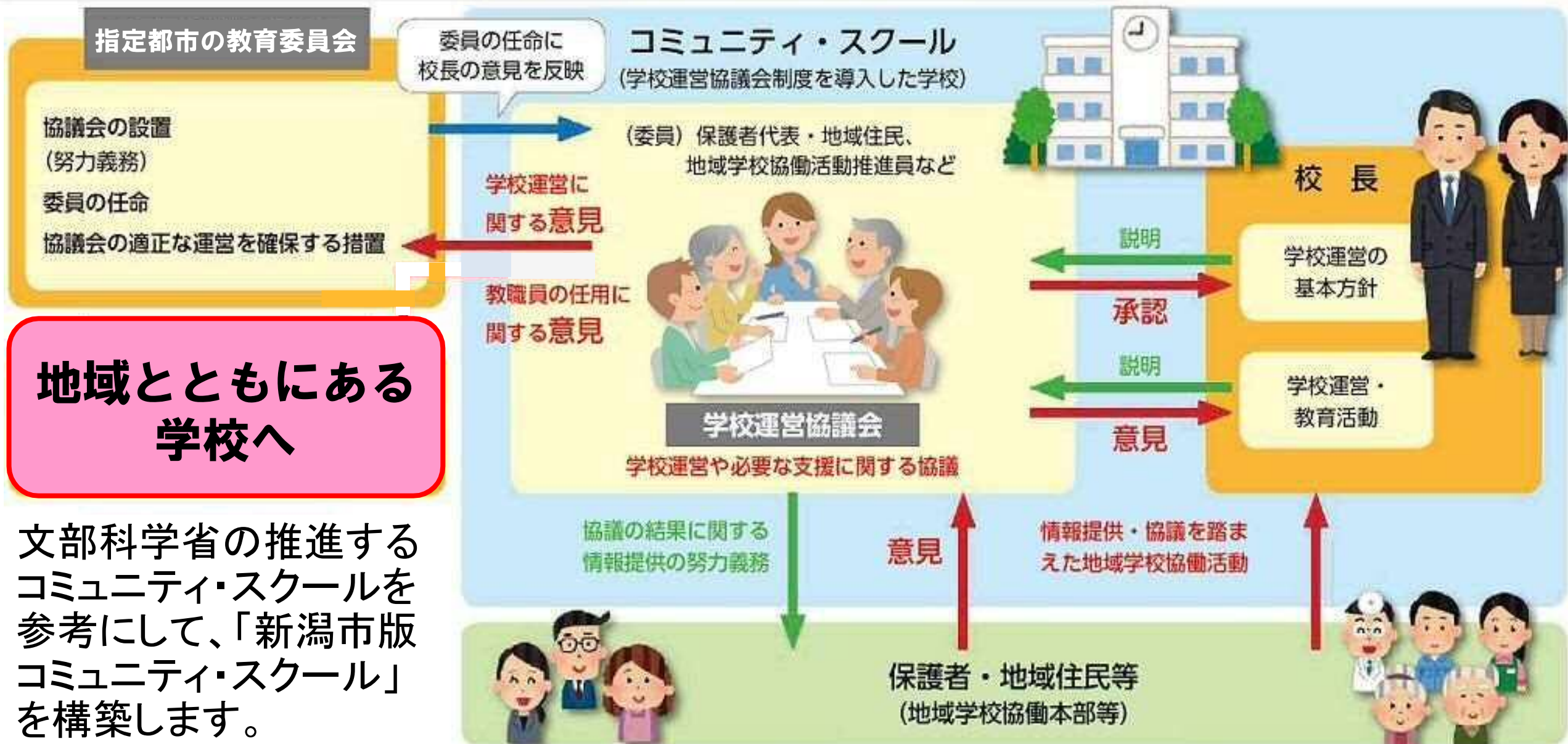
後藤第3部会長

- ・上所小で地域教育コーディネーターを10年している。地域によって状況ややり方に違いがあり、コーディネーターは全部の学校にいる。
- ・みんなで困っていることや気になっていることを話し合っ、自分ができることをやっていくことがいいのでは、と思う。



コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

（文部科学省イメージ）



地域とともにある学校へ

文部科学省の推進するコミュニティ・スクールを参考にして、「新潟市版コミュニティ・スクール」を構築します。

- 2020～2021年度
モデル校での実施
- 2022年度～
全市で実施

<学校運営協議会の主な役割> 地教行法第47条の6

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる



中央区（平均）のパートナーシップ事業

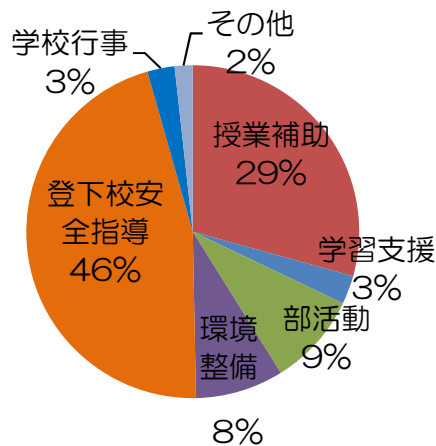
学校支援ボランティア のべ50, 395人が参加（1校あたり1, 867人）

地域貢献活動 27校が実施（実施率：100%）

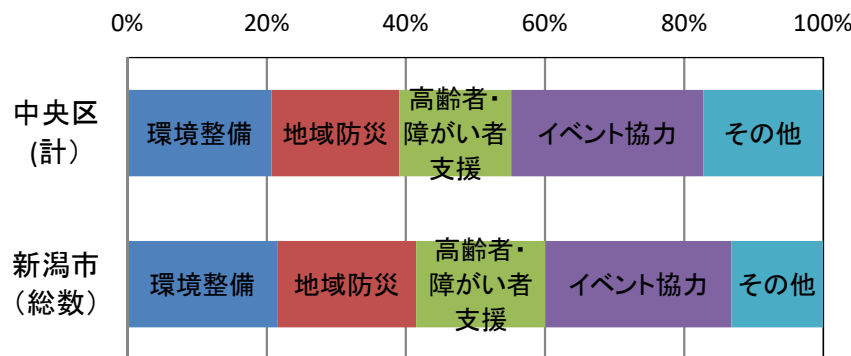
学びの拠点づくり 23校が実施（実施率：85%）

関係機関との連携 27校が連携（実施率：100%）

学校支援ボランティアの種類(中央区)

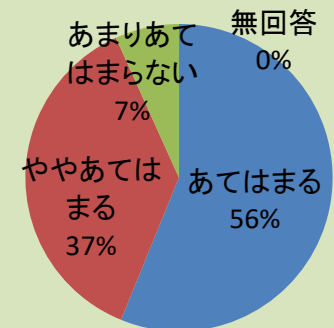


地域貢献活動の実施



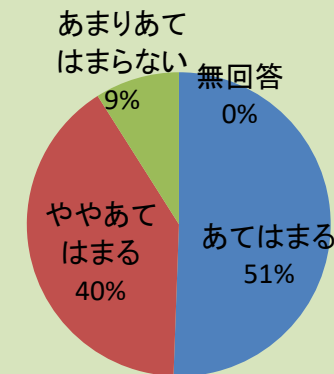
<中央区ボランティア参加者の声>

活動を通して、地域住民の交流の機会が増えるなど、地域住民同士の結びつきが強くなったと感じる。(中央区)

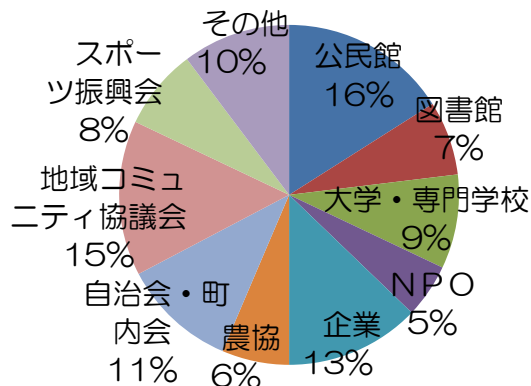


<中央区地域団体等の声>

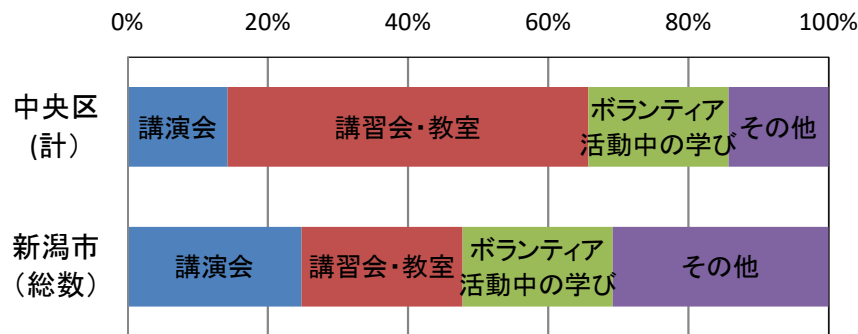
活動は、地域の活性化につながっていると感じる。(中央区)



地域の各団体との連携(中央区)



学びの拠点づくりの実施





事業の成果と課題

成果

- 子どもの学習活動が一層充実した。
- 授業の充実と教職員の負担軽減につながった。
- ふるさとへの愛着心が高まっている。
- ボランティアの輪が広がり、地域の魅力の再発見につながった。
- コミ協祭りや防災訓練などの地域行事への児童の参加で、地域に喜ばれた。
- 学校における多様な活動や関わりが、地域の大人の連携につながっている。
- 生徒自身が自分と社会、学びと社会の関係を意識することにつながった。
- 地域の職場での体験活動により、働くことの意義や地域の実情が実感できた。

課題

- ボランティア参加者が固定化。ボランティア募集方法の工夫と新規開拓が必要。
- 活動がマンネリ化、形骸化しないよう、実態に応じた活動の見直し。
- 地域や保護者の周知と理解を得るための広報活動が必要。

※中央区小中学校事業報告書より抜粋

中央区教育ミーティング 資料

関屋小学校の保護者・地域との連携の取組

1 はじめに

子どもたちは明るく活動的で学力も安定し、学校全体が和やかな雰囲気である。地域や保護者は学校に対して協力的で「子どもたちを地域で守り育てる」という意識が強い。

一方、新潟市生活・学習意識調査やアンケートの結果を見ると、子どもたちの「地域への関心や地域から学んでいる意識」の項目では、年々少しずつ数値はよくなってきているが、まだ十分とはいえない。そこで「地域とかかわり、地域から学び、地域のことを考える活動」を更に充実させ、「地域を愛し、地域を誇りに思い、よりよい地域を創ろうとする子どもの育成」を目指して取り組んでいる。

また、子どもたちのエネルギーの源は、自尊感情である。「自分が好き。自分は役に立っている。自分はやればできる。」というような気持ちが高まることが日々の張りのある生活につながる。自尊感情は、たくさんの人と接する中で認められたり、教えられたりするところから高まっていくものである。そこで、教育活動の中に積極的に外部人材によるボランティア活動を導入し、たくさんの保護者・地域の方々と連携する教育活動に取り組んでいる。



2 取組の実際

(1) 地域教育プログラムの実践

当校では、1～6年の各学年で、地域とかかわりながら地域の良さを知る活動が組まれている。

1年生では、生活科の「昔の遊び体験」の学習で地域の方々からボランティアとして入ってもらい、子どもたちに昔の遊びを教えてもらう活動を行っている。「お手玉」「あやとり」「けん玉」「コマ回し」「カルタ」等の学習を通して、子どもたちの心に「地域の良さを感ずる」「地域を愛する心が芽生える」ことに繋がっている。また、活動後には、どの地域の方も「子どもたちから元気ももらった。触れ合えてよかった。」と喜んでいて。



3年生では、一日店員活動を年2回行っている。校区にある団子屋、八百屋、花屋、すし屋、レストラン、美容院、スーパーマーケット等の様々な店舗に店員体験活動に行く。地域のよさを知り、仕事の意味を考えるための活動である。秋の活動は、春の活動の経験を生かし、さらに見聞きたいことを明らかにして課題意識をもち、より深い学びとなるようプログラムを工夫している。子どもたちは、生き生きと店員活動をしたり、インタビューしたりして「地域の店の歴史やよさ」「お店の方の工夫や思い」などを学ぶことができた。どの店舗の方も「子どもたちが来てくれてうれしい。」「さびしかった商店街に、子どもたちや保護者が足を向けるようになった。」と喜んでいて。



6年総合の「地域の福祉を考える」では、福祉について調べてボランティアをした体験から、自分たちでできることを考えたりよりよい未来のビジョンを発信したりする学習活動である。近隣校「県立はまぐみ特別支援学校」との交流で、子どもたちは、障がいの重さを感じ、「様々な障がいについて知りたい」「どうすれば喜んでもらえるか」等の課題意識や願いをもった。日本赤十字社の協力で車いすと高齢者の体験をし、健康福祉課の方から福祉の現状の説明を受けた。意識が高まった子どもたちは、「はまぐみとの再交流」「地域のお年寄りとの交流」「高齢者等のための安全マップ作り」のグループに分かれて活動した。学んだことをもとに地域の将来をより良くする構想を立て、地域や保護者に発表した。関わった方々は、「子どもたちと交流できてとてもうれしい。」「地域のことを考える若い世代が育つことはうれしい。」という感想を述べていた。

(2) 地域と学校で考える活動の推進

①地域と学校パートナーシップ事業推進会議

地域と学校パートナーシップ事業推進会議に、意見交換をする活動を取り入れている。参加者は、団体の代表やPTA役員である。テーマに沿って、地域の子どものをどう育てていけばよいかについて話し合う。地域の意見をいただく場となっている。



②校長室カフェ

月に一度、地域に校長室を開放している。この日は、地域の人たちや保護者がいつでも来室していいことにしている。地域の活動や学校の教育活動などについて、普段から思っていることや考えていることを双方向で伝え合う機会となっている。



(3) ボランティア活動の推進

当校では、ボランティア活動が盛んである。地域教育コーディネーターと連携・協働しながら年間で、のべ320人以上のボランティアが活動をしている。例えば下記のような活動である。

【児童と地域住民との交流活動】

お掃除ボランティア、緑化ボランティア、スタジオMAMA（読み聞かせボランティア）、新1年生の下校時見守りボランティア（4月）等

【学校行事、学習・クラブ活動の支援】

書写指導、体力テスト、3年一日店員、盲導犬、新潟甚句講習会
ひびきの集い、運動会、水泳監視 等

【よろずお助けボランティア】

印刷、清掃、掲示物や教材の作成 等



3 成果と課題

(1) 成果

- ・どの活動でも、取組の実際にあるように、子どもたちと学校と地域のそれぞれが利を得る「Win-Winの関係」を生み出している。
- ・地域と学校ウエルカム参観日（10月）に、活動の様子や成果、学んだこと等を地域や保護者の方々に発表し、意見や感想聞くことができた。大変好評であった。
- ・地域と学校が同じ場で、そして共通の話題で考え実践することを通して、地域の意識が高まり、学校と地域のベクトルを同じ方向にする効果があると感じた。



(2) 課題

- ・地域教育プログラムを教育計画に位置付け、推進組織のリーダーシップのもとで教職員間で系統性などを共有し、充実、発展させていく。

4 おわりに

多くの保護者や地域の方々と関わり、連携・協働しながら活動を展開してきている。関わった方々に感謝しながら、今後も更に内容を充実させていくことが、「地域を愛し、地域を誇りに思い、よりよい地域を創ろうとする子どもの育成」につながっていく。「関屋が大好きです。」「関屋はこんなに素晴らしいところです。」「関屋をこんなふうに良くしていきたいと考えています。」と胸を張って言える子どもたちを育てていくために、これからも保護者・地域との連携を充実させるための取り組みを継続していかなければならない。

中央区教育ミーティング 資料

新潟市立女池小学校

地域で育む子ども像～保護者，地域，学校の連携～

～キャリア教育をとおして～

女池小学校のキャリア教育では，低学年で地域を知る，高学年で地域の中で働く人々の様子を体験したり直接聞いたりしており，児童が自分の将来を見据えた生き方を考えさせる教育環境を整えています。

そこで，地域，保護者，学校が力を合わせたキャリア教育の実践を紹介します。

1 小・中9か年を見通したキャリア教育の推進

○自己肯定感を高めたり，他者と協働したりしてものごとに取り組み，自己の成長を果たしていく児童を育てる。

○様々な体験活動を通して，学ぶこと，働くことの意味を実感・納得し，自分の生き方を考える児童を育てる。

2 キャリア教育の目標（女池小学校全体計画より）

○学ぶこと，働くことの意味や役割を理解し，自分の生き方に生かそうとする児童を育てる（目標3）。

3 キャリア教育の基本方針（女池小学校全体計画より）

○キャリア教育が児童にとって，長い将来を見据え，自己理解・自己決定・自己実現するための「生き方学習」であるという共通認識のもとに，「計画的」「組織的」に実践する（基本方針1）。

○生活科や総合的な学習の時間，特別活動を中心とする教育活動全体を通して実践していく（基本方針2）。

4 女池小学校の主な実践

（1）2学年 「わたしの町大好き」 5月28日，6月4日

今年度の受入れ先施設・店舗25か所

セブンイレブン，シャトレーゼ，カーブドッチとやの，郵便局，ウオロク，リクシル，おとぎや珈琲店，ビックボーイ，モスバーガー，ほっともっと，交通公園，小張木神社，サフラン，トヨタ自動車，からよし，カワチ薬品，ブックオフ，鳥屋野潟公園，県立図書館，県立自然科学館，女池交番，リージェンス・ウエディングマナーハウス，GU，タマキ肉店，あまみや



地域9名，保護者7名のボランティアが協力した。

(2) 3学年 「調べよう！ふるさと女池探検隊」 9月11日(水)

2学年の町探検に続き、女池の地域や自然の特徴を学習。

今年度の受入れ先5方面、10か所

リクシル、トヨタ自動車、クスリのアオキ、GU、ほっともっと、小張木神社、
県立自然科学館、県立図書館、鳥屋野潟公園、鳥屋野潟公園野球場・球技場
保護者のボランティアは12名でした。

事前学習をしていきます



(3) 6学年 「職場体験」 平成30年11月2日(金)・16日(金)

昨年度の職場体験受入れ先施設・店舗38か所

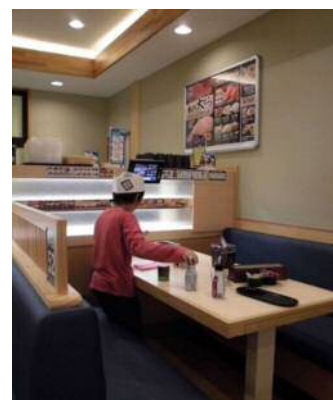
クスリのアオキ、ばんりゅう、タマキ肉店、おとぎや珈琲店、スーパーマルイ
県立自然科学館、はま寿司、リージェンス・ウエディングマナーハウス
はなことば新潟2号館、サフラン、菜葉亭、トヨタ自動車、高田建築事務所
大和ハウス工業、第四銀行、女池郵便局、こぼとこども園、カーブドッチとやの
ウオロク、ビックボーイ、シャトレゼ、和楽亭澤、湯ったり苑、リクシル
めいけこども園、恵光第二幼稚園、ブックオフ、みどり病院、鳥屋野潟公園
フルフレーム、アドゥヘアース、鳥屋野総合体育館、わかくさこども園
草村動物病院、女池交番、モスバーガー、GU、鳥屋野地区公民館



今年度は「夢先生に学ぼう」と題して、保護者の皆様、
地域の皆様15名を講師に迎え、仕事の内容・選んだ理由
やりがいなどを直接聞きました。

5 まとめ

児童が女池校区を探検し、様々な地域の人々に出会い、体
験することで一人一人が将来に向けての生き方学習ができま
す。さらに中学校でのキャリア教育につなげていきたい。



地域教育コーディネーターが活躍中!

地域教育コーディネーターは学校を拠点として学校と社会教育施設、地域を結ぶ新潟市の職員です。

約300人の地域教育コーディネーターは次の仕事をしています。

- ◇学校や地域団体、社会教育施設との連絡、調整をします。
- ◇学校支援ボランティアを募り、教育・課外活動につなげます。
- ◇学校が地域の学びの場になるように働きかけます。
- ◇コーディネーター通信などを通して、活動の様子を広報します。



< 地域教育コーディネーターの声 >

- 地域のボランティアの皆さんも、保護者のボランティアの皆さんも、学校に来ることにつながってくださいます。そのつながりの中で子ども達が育まれていくことに、私自身も喜びを感じています。
- ボランティアの皆さんが、帰り際に「また来たい」と言ってくださることが、一番の励みになり、ありがたくも思います。

学校支援ボランティア募集しています

地域と学校パートナーシップ事業には、地域の方々のご協力による「学校支援ボランティア」が不可欠です。現在のべ32万人以上の方が参加しています。未来を担う子どもたちのために、一緒に活動しませんか。市民のみなさんのご協力をお願いします。

活動に関心のある方、応募したい方は各学校または各区教育支援センターへお問い合わせください。



< 学校支援ボランティアの声 >

- 学校に出向くことで、事前準備を含め自分自身にとって良い刺激となり、楽しい時間をいただいています。このような活動がもっと伝わり、かかわる人が増えるといいなと思います。
- 中学校が地域に出かけて行う貢献活動には地域団体、施設、自治会どこでもありがたく思っています。成長した子どもたちと対等に話せることは自分自身にとって大きな財産です。



このリーフレットについてのお問合せ

新潟市教育委員会
地域教育推進課

〒950-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1
TEL 025-226-3277 FAX 025-230-0421
E-mail chiiki.edu@city.niigata.lg.jp

学・社・民の融合による

人づくり, 地域づくり, 学校づくり



新潟市 地域と学校 パートナーシップ事業

新潟市では、「学・社・民の融合による教育」を進め、学校が今まで以上に地域に開かれ、地域と共に歩むことができるように、「地域と学校パートナーシップ事業」を行っています。

開始から12年が経過し、市立のすべての小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校が、地域と連携・協働した様々な活動を行い、事業の目指す姿「学校が元気に、地域が元気に、子どもが元気に」の実現に向け取り組んでいます。

地域と学校パートナーシップ事業による

「学・社・民の融合による教育」のイメージ

「学」は学校、「社」は公民館や図書館などの社会教育施設、「民」は地域住民、家庭、地域の諸団体や企業です。学・社・民のそれぞれが役割を果たし、一体となって教育活動を進め「融合する」ことで大きな力が発揮できるという考え方のもと、「人づくり、地域づくり、学校づくり」を推進しています。



新潟市教育委員会

事業の4つの柱

I 学校、社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり

- ◇学校、社会教育施設、地域住民による情報交換
地域カレンダーづくり、地域の茶の間づくりなど

II 学校の教育活動・課外活動における地域人材の参画と協働

- ◇専門的な知識・技能を生かした学習支援
英語活動、栽培活動、本の読み聞かせ、部活動など
- ◇自分の生活体験を生かした学習支援
昔の遊び指導、ミシン縫い補助、調理補助、面接指導など
- ◇環境整備
校地・校舎の緑化活動、通学路の整備、図書の整備など
- ◇子どもが発信し活動する地域貢献
地域防災訓練、商品開発、地域ガイドボランティアなど
- ◇学校と地域と一緒にすすめる地域交流
地域の祭りへの参画と交流、地域の未来を語る会など

III 学校における地域の学びの拠点づくり

- ◇学校が公民館・図書館とともに進める学びの場づくり
プレママ学校、読み聞かせ講習会など
- ◇学校施設の活用による学びの場づくり
地域に向けたパソコン教室、料理教室、絵手紙教室など

IV 学校の教育活動の様子を地域へ発信

- ◇たよりやホームページで取組を広報
- ◇地域と学校ウェルカム参観日を開催し、取組を紹介



学校が元気に!

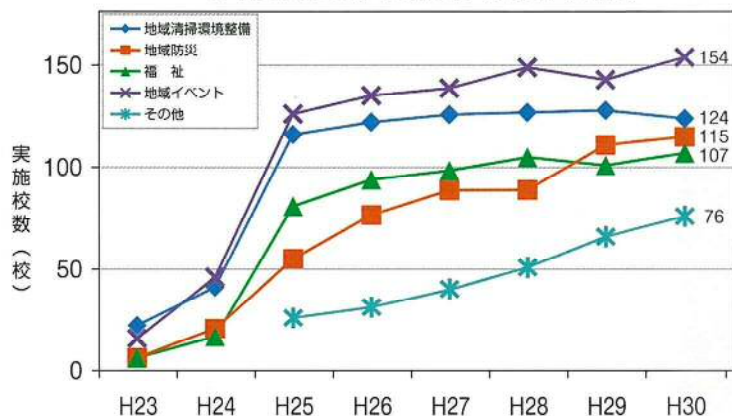


- ◇地域の参加による多様な学習活動が進められています
- ◇地域の皆さんの学校への理解と協力が広がっています
- ◇地域に根ざした特色ある学校づくりが進んでいます



- 技術を身に付ける学習等、担任だけでは指導が難しい時に、地域にお住まいの方から来ていただき複数で指導したところ、子どもたちの技術がみるみる上達し、とてもありがたかったです。(小学校教員)
- ボランティアの皆さんのおかげで、多様な教育活動が可能となっています。(特別支援学校教員)
- コーディネーターさんから、生徒が地域の行事や地域のボランティア活動に参加する多くの機会をつくっていただき、生徒の自己有用感の育成に大いに繋がっています。(中学校教員)

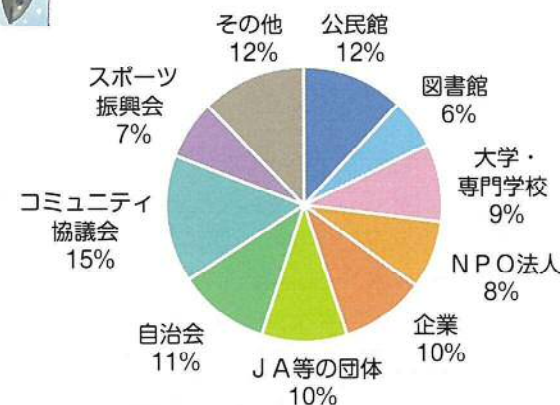
地域貢献活動実施校数 (事業報告書より)



地域が元気に!



学校が連携・協働する施設・団体 (30年度事業報告書より)

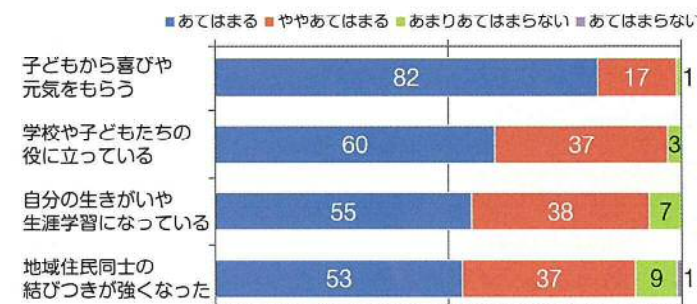


- ◇学校を学びの拠点とした活動が進んでいます
- ◇大人と子どものふれあい・交流が活発になっています
- ◇地域の活性化につながっています

○パートナーシップ事業により、地域と学校との垣根が低くなり、協働活動を実施できるようになりました。これにより、地域の活性化が図られ、強化されてきたと思います。(地域団体)

○まさに地域と学校とのつなぎ役として、コーディネーターの方は重要な役割を担ってくださっていると思います。自分の子や孫がその学校に通ってなくても、子どもたちが地域の宝であるということを知り、地域住民が認識できる活動であり、地域のためにも今後も継続していただきたいです。(地域団体)

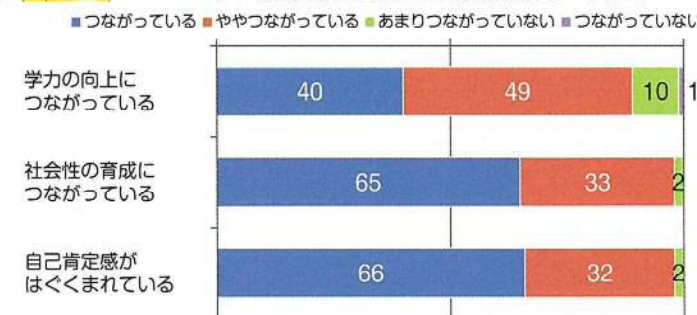
事業は地域の元気につながっているか (30年度ボランティアを対象とした意識調査より 単位%)



子どもが元気に!



事業は児童生徒の成長につながっているか (30年度教職員を対象とした意識調査より 単位%)



- ◇学力が向上しています
- ◇社会性が育成されています
- ◇自己肯定感が高まっています

○ボランティアの方がいてくれることで、子どもたちは自分を認めてもらえる機会が増え、充実感が増し、地域と繋がっていることを感じる事ができています。(小学校教員)

○地域のお年寄りのお宅にお弁当を届ける「宅配ボランティア」の取組や、地域の福祉施設での「お楽しみ会」等、中学生が地域の方々と触れ合う機会があり、それを通じてお互いに心温まる体験ができていて大変良いと思います。(中学校教員)

○ゴミ出しボランティアでは、生徒の地域の所属感や自己肯定感が育っていると感じています。(中学校教員)

○限られた人間関係の中で生活する子どもたちが多く、パートナーシップ事業でボランティアの皆さんとかわることは、コミュニケーション能力を高める大切な活動になっています。(特別支援学校教員)

事業は子どもの元気につながっているか (30年度新潟市生活・学習意識調査より 単位%)

